

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：世界の問題と子どもたち
2. 実施者：松本謡子（特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン）
3. 日時：2016年4月29日（金）
4. 場所：埼玉県立大滝げんきプラザ 埼玉県秩父市大滝 5944-2
5. 参加者：聖望学園中学校 1～3年生、156名
6. 実施報告：

①世界の問題について

パワーポイントを用いて、貧困、保健、栄養、水衛生、教育のセクターごとに、途上国の子どもの現状を写真とクイズで紹介した。ワールド・ビジョンが支援を通して出会った子どもたちのストーリーを交えて具体的に問題が子どもたちの人生にもたらす影響やどのように問題を解決するのか等を説明した。参加者の中学生が事前学習で取り組んだテーマと重なるよう事前に担当教諭から伺ったポイントを盛り込んだ。

②人身取引について

人身取引とは何か、定義や被害者数、世界的な広がりをパワーポイントで紹介した。カンボジアで撮影された動画を見てもらい、問題の深刻さや、どのように子どもや若者が問題に巻き込まれてしまうのか解説した。さらにクイズを通して日本の現状に目を向けた。次にグループディスカッションでは途上国で頻繁に見かける物売りの少女が自分に声をかけてきた時に自分はどうのような対応をするか、その理由とその結果として少女にどのような影響が及ぶかについて議論し発表した。根本的な問題解決は難しいことを説明し、少女が物売りをしなくても良い地域作りについてワールド・ビジョンの具体的な取り組みを紹介した。最後にロールプレイでは人身取引に関わる人物（農村に暮らす家族やブローカー、途上国の警察官、日本の学生等）の「役割カード」を読んでそれぞれの状況を理解し、その役割の立場で人身取引をなくすためにできることを議論した後、役割を離れて参加者自身が中学生一人ひとりにできることを話し合い発表した。

参加者からは「もっとこのような問題について知る機会が増えると良いのではないか」「自分には関係ないという姿勢が問題ではないか」「国を越えたレベルで取り締まりを強化すべきではないか」等の声が寄せられた。全体としては、「これまで人身取引についてほとんど知らなかったが日本も関わっていることに驚いた」「日本でも被害にあう人がいるから関係ないことではないと思った」等の感想が寄せられた。

7. 所感：

依頼者（学校）が事前学習の時間を設けて、グループごとに調べ、発表し合って、出張サービスの当日を迎えるという段取りを組んでくださったので参加者一人ひとりの関心が高く、熱心に耳を傾けてもらうことができた。

クイズはグループ対抗戦の形式にし、真剣に貧困、保健、栄養、水衛生、教育の問題に目を向けてもらうことができた。ディスカッションで物売りの少女から物を買うか買わないか話し合う際には「かわいそう」という声が多く聞こえたが、実際に少女にもたらす影響として、買って買わなくても根本的な問題解決にならないことを説明し参加者に問題の複雑さを感じてもらうことができたようだった。ロールプレイではブローカー役や日本の学生役を設けたことにより、人身取引によって利益がもたらされている人や無関心な姿勢を持つ人がいることを伝えることができた。

時間が不十分になってしまったがロールプレイの手法は参加者が主体的に考える方法になったと感じた。人身取引の問題について、多くの参加者にインパクトをもって伝わり、考えるきっかけに生まれればうれしい。

8. 別添（写真）



役割カードを読む参加者。



人身取引のない世界を作るためにできることをグループごとに話し合う様子。